

《IV 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成21年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

関東短期大学履修及び試験規程の第6条では、学生の履修登録に関して必要な要件を規定している。また、第7条では成績の評価を試験によって行うことを原則とし、これに授業中の課題、出席状況等を加味したことで行うと定めている。試験の種別は、筆記試験、実技試験、作品試験、レポート試験及び面接試験とし、講義を主とする科目の試験は、筆記試験を原則としている。

成績の評価については学則第30条及び関東短期大学履修及び試験規程第7条のとおり、A、B、C、Dの4段階で表し、Aは試験得点80点以上、Bは70点以上79点以下、Cは60点以上69点以下、Dは59点以下とし、A、B、Cを合格として所定の単位を認定している。

なお、成績処理上、履修登録科目のうち、受験資格のない科目、試験を無届けで受けなかった科目、及び追試験又は再試験を願い出ながら無届けで受験しなかった科目は、Eの標語で表わしている。

また、関東短期大学履修及び試験規程第9条第10条では、やむを得ない事故等により試験を受けることの出来なかった者のために追試験を、受験はしたが不合格となった学生のために再試験を行うことを規定し、単位の修得に配慮している。

平成21年度卒業生の単位認定状況は下表のとおりである。

[こども学科の単位認定の状況表]

(平成21年度卒業生100名 注;入学者数108名。退学者数8名)

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)				
					本試	再試等	計	A	B	C	D	E
基礎科目	フレッシュマン・セミナー	演習	101	出席、レポート	100	0	100	89	11	0	0	0
	ソフォモア・セミナー	演習	101	出席、授業態度	100	0	100	93	7	0	0	0
	英語コミュニケーション	演習	101	出席、試験	99	1	100	49	31	20	0	0
	コンピュータ	演習	101	出席、試験	98	2	100	31	58	11	0	0
	基礎体育(講・実)	講義・実技	101	出席、筆記試験、実技試験	100	0	100	64	31	5	0	0
教養科目	児童文学	講義	81	総合評価	96	0	96	56	24	17	1	2
	歴史	講義	28	出席、試験	96	0	96	36	18	43	0	3
	美術	講義	43	小論文、試験	98	0	98	81	12	5	2	0
	日本国憲法	講義	99	総合評価	81	18	99	22	24	53	1	0
	社会学	講義	7	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	心理学	講義	74	出席、試験	95	3	98	58	27	12	3	0
	自然科学概論	講義	26	総合評価	92	0	92	65	27	0	0	8
	生涯学習概論	講義	25	出席、レポート	100	0	100	96	4	0	0	0
	児童英語A	演習	19	総合評価	95	0	95	69	5	21	0	5
	児童英語B	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)				
					本試	再試等	計	A	B	C	D	E
教科に関する科目	国語	講義	13	総合評価	100	0	100	77	23	0	0	0
	社会(小免科目)	講義	12	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	算数	講義	13	総合評価	100	0	100	54	46	0	0	0
	理科(小免科目)	講義	4	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	生活	講義	30	総合評価	97	0	97	70	24	3	0	3
	音楽	演習	5	総合評価	100	0	100	60	40	0	0	0
	器楽Ⅰ	演習	100	実技試験	98	1	99	39	37	23	0	1
	器楽Ⅱ	演習	84	課題習得曲数	99	0	99	23	49	27	0	1
	声楽	演習	76	出席、実技試験	99	0	99	40	55	4	0	1
	アンサンブルA	演習	17	実技試験	100	0	100	53	47	0	0	0
	アンサンブルB	演習	8	実技試験	88	0	88	50	25	13	0	12
	図工	演習	99	総合評価	96	3	99	65	25	9	0	1
	家庭(小免科目)	講義										
	体育	演習	101	出席、試験	99	1	100	77	13	10	0	0
幼児体育	演習	21	総合評価	95	0	95	90	5	0	0	5	
教職に関する科目	教師・保育者論	講義	98	総合評価	100	0	100	41	50	9	0	0
	初等教育原理	講義	101	総合評価	100	0	100	45	48	7	0	0
	教育史	講義	4	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	保育原理Ⅰ	講義	88	総合評価	94	3	97	63	25	10	1	1
	教育心理学	講義	101	総合評価	93	7	100	32	18	50	0	0
	児童心理学	講義	12	総合評価	92	0	92	75	17	0	0	8
	発達心理学	講義	89	総合評価	96	3	99	58	14	27	0	1
	障害児教育・保育	演習	101	総合評価	100	0	100	40	53	7	0	0
	教育法規	講義	11	総合評価	100	0	100	64	27	9	0	0
	学級経営	講義	9	総合評価	100	0	100	22	78	0	0	0
	国語教育法(小免科目)	演習	13	総合評価	100	0	100	77	23	0	0	0
	社会教育法(小免科目)	演習	11	総合評価	100	0	100	82	9	9	0	0
	算数教育法(小免科目)	演習	13	総合評価	100	0	100	84	8	8	0	0
	理科教育法(小免科目)	演習	10	総合評価	100	0	100	70	30	0	0	0
	生活教育法(小免科目)	演習	9	出席、態度、課題	100	0	100	100	0	0	0	0
	音楽教育法(小免科目)	演習	12	総合評価	100	0	100	34	33	33	0	0
	図工教育法(小免科目)	演習	12	総合評価	100	0	100	59	33	8	0	0
	体育教育法(小免科目)	演習	12	試験、レポート	100	0	100	67	33	0	0	0
	家庭教育法(小免科目)	演習										
	道徳教育(小免科目)	講義	13	総合評価	100	0	100	85	15	0	0	0
	特別活動(小免科目)	講義	13	総合評価	100	0	100	92	0	8	0	0
	教育・保育方法論	演習	101	総合評価	99	0	99	59	22	18	0	1
	教育技術	演習	11	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	保育内容総論	演習	101	総合評価	91	8	99	59	30	10	0	1
	保育内容・健康	演習	92	試験、出席、課題	100	0	100	96	3	1	0	0
	保育内容・人間関係	演習	92	総合評価	93	5	98	50	28	21	0	1
	保育内容・環境	演習	101	出席、試験、課題	100	0	100	69	21	10	0	0
	保育内容・言葉	演習	93	総合評価	95	5	100	49	25	26	0	0
	保育内容・表現Ⅰ	演習	98	総合評価	98	1	99	62	19	18	0	1
	保育内容・表現Ⅱ	演習	99	総合評価	100	0	100	77	18	5	0	0
	保育内容・表現Ⅲ	演習	30	出席、態度、意欲	97	0	97	77	13	7	0	3
	生徒指導(小免科目)	講義	13	レポート	100	0	100	23	77	0	0	0
	教育相談	演習	101	総合評価	96	3	99	57	23	19	0	1
乳幼児心理学	講義	101	総合評価	99	0	99	70	20	9	0	1	
総合演習	演習	101	総合評価	100	0	100	97	2	1	0	0	
教育実習指導	実習	99	総合評価	98	0	98	57	31	10	0	2	
教育実習	実習	92	総合評価	99	0	99	41	51	7	0	1	

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)				
					本試	再試等	計	A	B	C	D	E
保育士科目	社会福祉論	講義	88	レポート	100	0	100	23	73	4	0	0
	社会福祉援助技術	演習	84	レポート、試験	100	0	100	54	28	18	0	0
	児童福祉Ⅰ	講義	88	出席、試験	99	1	100	44	31	25	0	0
	養護原理	講義	87	出席、試験	99	1	100	33	50	17	0	0
	小児保健Ⅰ	講義	88	総合評価	94	5	99	9	29	61	0	1
	小児保健Ⅱ	講義	87	総合評価	90	10	100	21	37	42	0	0
	小児保健実習	実習	85	出席、態度、試験	95	5	100	27	31	42	0	0
	小児栄養	演習	88	総合評価	89	9	98	30	49	19	0	2
	精神保健	講義	87	試験	99	0	99	33	31	35	0	1
	家族援助論	講義	85	レポート、試験	99	0	99	74	17	8	0	1
	乳児保育Ⅰ	演習	87	総合評価	94	5	99	72	13	14	1	0
	養護内容	演習	86	総合評価	95	2	97	70	22	6	0	2
	保育実習指導	実習	86	総合評価	98	0	98	72	19	7	2	0
	保育所実習Ⅰ	実習	84	総合評価	100	0	100	19	43	38	0	0
	施設実習Ⅰ	実習	84	総合評価	100	0	100	22	45	33	0	0
	保育原理Ⅱ	講義	8	総合評価	100	0	100	63	37	0	0	0
	児童福祉Ⅱ	講義	4	総合評価	100	0	100	75	25	0	0	0
	臨床心理学	講義	7	総合評価	86	0	86	86	0	0	0	14
	乳児保育Ⅱ	演習	61	総合評価	93	5	98	41	41	16	2	0
	保育所実習Ⅱ	実習	60	総合評価	100	0	100	27	37	36	0	0
施設実習Ⅱ	実習	24	総合評価	100	0	100	21	54	25	0	0	
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	講義	12	総合評価	100	0	100	75	25	0	0	0
	学校図書館とメディアの構成	講義	10	試験	100	0	100	40	60	0	0	0
	学習指導と学校図書館	講義	12	出席、試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	読書と豊かな人間性	講義	10	試験	100	0	100	50	40	10	0	0
	情報メディアの活用	講義	12	レポート	100	0	100	50	50	0	0	0

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

単位の認定、単位の取得状況や評価の現状(筆記試験、レポート、課題発表会など)等については、適切に進められていると認識している。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

この単位の取得状況を見ると、単位の取得状況も86パーセントから100パーセントまでと科目担当者の評価基準に差があり、成績の評価も科目によって大きな開きがあることがわかる。

科目によって評価規準が異なると同時に、その規準は科目担当教員の裁量に任されており、ほとんど絶対評価がとられている。そのため、科目間の統一的な基準を設けることは適当ではないし、実際的にも不可能に近いといえる。

この評価の現状からは、学生の受講姿勢や学習成果に対する科目担当教員の要求水準が反映されたものと理解できるが、「E」の標語で単位を認定しない科目があることは、本学の教育水準を一定のレベルに保っていることの証左ともいえるであろう。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

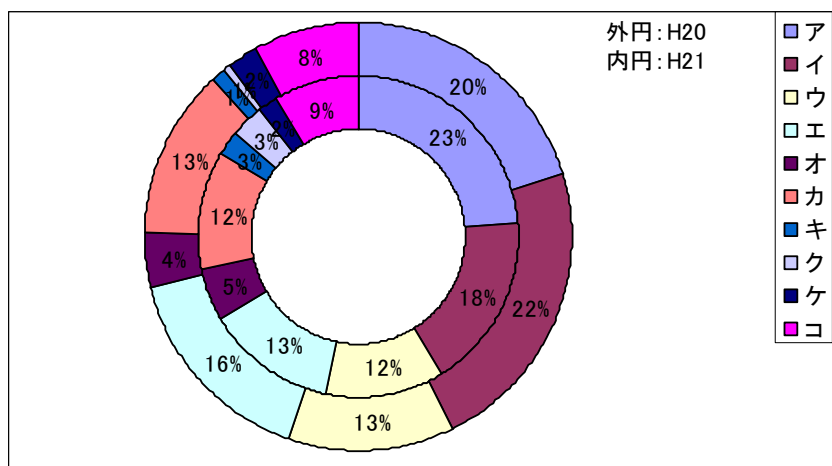
本学では、全授業科目について、前期終了時(7月)及び後期終了時(2月)授業評価を実施すると共に2年次生は卒業前の2月、アンケートによる「学生意識調査」を実施している。学生の満足度については、授業評価と卒業生の意識調査のそれぞれの結果を総合的に判断している。満足度に関して改善を要する項目については、教員がそれぞれ原因分析を行い、改善案を盛り込んだ次年度授業計画を作成し、実施している。

[平成21年度卒業生の意識調査結果について]

- 1 調査日:平成22年2月22日(月)
- 2 調査協力者:76名(2年生)

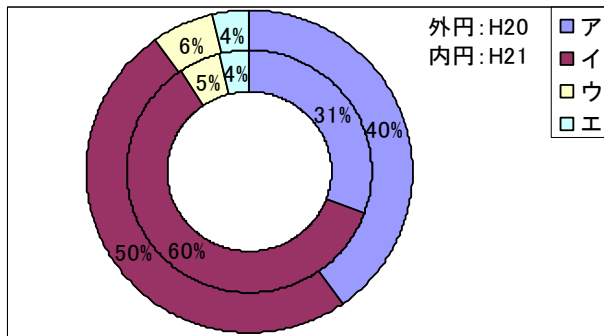
設問1 2年間の短大生活を終えるにあたって、今感じることは。(複数回答可)

質 問 項 目		21年度		20年度	
ア	社会人として、役に立つ知識技能、マナーなどを習得できたと思う	36	23.7%	116	20.3%
イ	一人の人間として一段と成長したと思う	27	17.8%	128	22.4%
ウ	学問の学び方、学ぶことの楽しさを習得、実感することができた	18	11.8%	72	12.6%
エ	円満な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を養うことができた	20	13.2%	90	15.7%
オ	ものごとを論理的に思索し、健全に判断できる見識をもてるようになった	8	5.3%	24	4.2%
カ	人の心の痛みの分かる優しさと思いやりのある人間性豊かな人になれた	18	11.8%	74	12.9%
キ	短大入学の目的を見失い、無駄な2年間で過ごしてしまった	4	2.6%	6	1.0%
ク	2年間を通じ何かをつかもうとしたが、結局何も得られなかった	5	3.3%	4	0.7%
ケ	自分なりに努力はしたが、成績、就職など不本意な結果となってしまった	3	2.0%	12	2.1%
コ	他人に誇れる成果は無かったが、2年間の短大生活を悔いなく過ごした	13	8.6%	46	8.0%
計		152	100.0%	572	100.0%



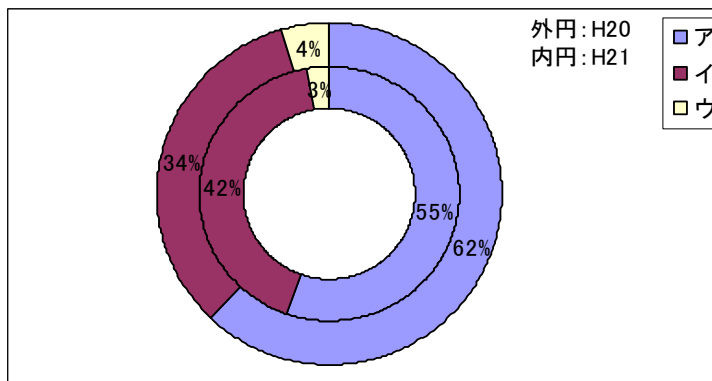
設問2 カリキュラム(教科目)は、あなたの知的欲求又は向上欲求を十分満たすものでしたか。

質問項目		21年度		20年度	
ア	十分に満たすものであった	23	30.7%	90	40.2%
イ	ある程度満たすものがあった	45	60.0%	112	50.0%
ウ	勉強したい科目が少なく、ほとんど満たされなかった	4	5.3%	14	6.3%
エ	はじめから欲求を持っていなかったから、カリキュラムには興味が無かった	3	4.0%	8	3.6%
計		75	100.0%	224	100.0%



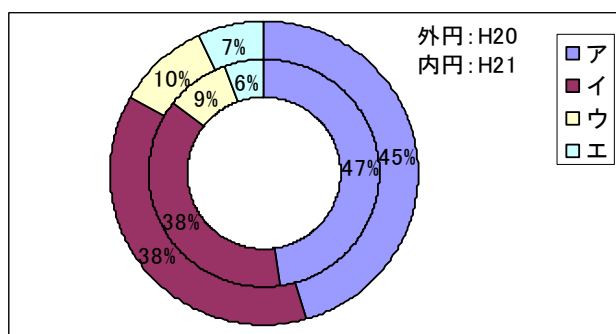
設問3 あなたは、この2年間の自分の勉学態度をどう思いますか。

質問項目		21年度		20年度	
ア	2年間の全期間を通じて、勉学に励んだと思う	41	55.4%	140	61.9%
イ	アルバイトや就職活動のため忙しく、勉学が中途半端なものになってしまった	31	41.9%	76	33.6%
ウ	勉学の目標を見失い、両年次ともまじめに学ぼうとしなかった	2	2.7%	10	4.4%
計		74	100.0%	226	100.0%



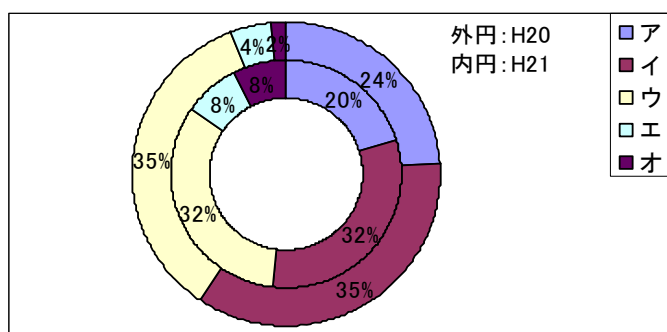
設問4 先生の授業に対する熱意。取り組みについての感想は。(複数回答可)

質 問 項 目		21年度		20年度	
ア	ほとんどの先生が、熱意を持って学生に対応していると思う	43	47.8%	130	45.5%
イ	手作りの教材や資料等を使って学生に理解させようと熱意を持ってがんばっている先生も見受けられた	34	37.8%	108	37.8%
ウ	あまり熱意が感じられず義務的に授業をする先生も散見された	8	8.9%	28	9.8%
エ	学生の理解度に関心で、一方的に授業を進める先生も多く見受けられた	5	5.6%	20	7.0%
計		90	100.0%	286	100.0%



設問5 あなたは、全ての授業が終わった今、2年間の授業を受けての感想は。(複数回答可)

質 問 項 目		21年度		20年度	
ア	論理的思考力、判断力、表現力等が身につき自分が一段と成長したように思う	16	20.3%	58	24.0%
イ	将来に役立つ知識及び技能を修得でき、社会人となる上での大きな自信となる	25	31.6%	86	35.5%
ウ	短大生としての2年間を楽しみながら勉強をすることができたと思う	26	32.9%	84	34.7%
エ	授業内容、分かり易さ、授業の進め方等を総合すると不満な点が多かった	6	7.6%	10	4.1%
オ	目的意識が堅持できず2年間の勉強で得るところのものは少なかった	6	7.6%	4	1.7%
計		79	100.0%	242	100.0%



これらの結果は、多くの学生が専門的知識や技能を身につけ、小学校や幼稚園教諭の免許、保育士資格を取得するために授業に臨む姿勢がうかがえる。免許や資格取得のために入学した学生が圧倒的に多く、高等教育機関における教育を意識して、幅広い専門的知識や技能を修め、

深い教養や総合的な判断力を培う豊かな人間性を高めるという視点は残念ながら少ないように思える。

しかし、本学の授業に関しては学生の評価は概ね満足している結果が出ている。

また、教員の授業に対する姿勢にも多くの学生が良い評価をしており、本学教員の教育に対する意識の高さを物語るものであろう。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学では、前期・後期の2回、全学生の授業評価を、2年次生は卒業前の2月に「学生意識調査」を実施している。その結果は専任、非常勤を問わず担当教員にフィードバックされる。各教員は、学生の満足度が低い評価項目に関しては、自己評価及び反省・検証して、改善策を盛り込んだ授業計画を次年度に生かしているものと認識している。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の授業評価及び満足度調査の結果は、多くの学生が専門的知識や技能を身につけ、幼稚園教諭の免許、保育士資格を取得するために授業に臨む姿勢がうかがえる。もちろん、第一義的には免許や資格取得のために入学した学生が圧倒的に多いことは間違いない。しかし、高等教育機関における教育を意識して、幅広い専門的知識や技能を修め、深い教養や総合的な判断力を培う豊かな人間性を高めるという視点は残念ながら少ないように思える。

しかし、本学の授業に関しては学生の評価は概ね満足している結果が出ている。

また、教員の授業に対する姿勢にも多くの学生が良い評価をしており、本学教員の教育に対する意識の高さを物語るものであろう。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

過去3年間の退学、休学、留年等の状況については下表のとおりである。

〔こども学科(幼保コース)の退学者等一覧表〕

(平成22年3月31日現在)

区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	155	109	81	
うち退学者数	8	9	3	
うち除籍者数	1			
うち休学者数	*a 3	1	1	
休学者のうちの復学者数	1		1	
うち留年者数	*b 2	1		
卒業生数	144	99		

*a 休学を経て異動した3名は、退学1、除籍1、復学1と計算している。

*b 2名ともものに卒業した。

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。

退学者の人数は特に21年度においては減少している。退学、休学、留年に至る理由は、学生によって様々である。主な理由は進路変更、一身上の都合、家庭の事情等である。(下記の表・退学の理由割合参照)過去3年間に於いて、退学理由は進路変更が56%から0%へと減少し、勉強意欲喪失、結婚、一身上の都合等が増大している。

本学においてはクラス担任制を置き、教科担任教員からクラス担任へ欠席情報カード(イエローカード)による欠席情報の提供により、出席不足傾向の学生に注意喚起を促し、単位未修得の回避を目的として活用されている。

また、担任の日常生活におけるコミュニケーションの積み重ねにより、遅刻・欠席・早退が増えるなどの学生の生活の変化を早期に発見し、個別に指導や助言を行うことによって、退学等を未然に防いでいる。また、教員研究室を個室とせず、ブースの形態をとり、開放的な研究室となっており常に学生が入り出し、相談や学習指導を受けやすい環境になっていることも近年の学生の特性に合致した個別の支援が可能になっていると思われる。

しかしながら、進路変更や一身上の都合等で退学を余儀なくされる学生も少数ではあるが出現している。入学試験の段階で学習に対する意欲や進路に対する意識の程度、本学の教育方針を理解しているか否か等を充分に見極めることから始まり、入学後は学習に対する意欲を持続できるような個別の働きかけ、学生同士や教職員とのより良い人間関係を構築できるような支援をこれまで以

上に充実したものにして行くことが、退学者等をなくすための方策であると考える。

〔退学の理由割合〕

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

理由	平成19年度入学生		平成20年度入学生		平成21年度入学生	
	人数	%	人数	%	人数	%
進路変更	5	56	3	33		
経済的理由	2	22	1	11		
家庭の事情	1	11				
勉学意欲喪失			2	22		
結婚のため			2	22		
一身上の都合			1	11	3	100
除籍	1	11				
計	9	100	9	100	3	100

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

こども学科においてはクラス担任制とし、学習面だけにとどまらず、学生生活全般の支援を行うことによって、退学等を未然に防いでいる。しかしながら、進路変更等で退学を余儀なくされる学生も出ている。休憩時におけるオフィス・アワーや月曜日、金曜日における進路支援講座、時間外における学生の相談体制等を丁寧にすすめることにより、退学者等の現状を改善していかなければいけないと認識している。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

こども学科では、教育・保育職に就くにあたって必要な知識・技能をしっかりと修得し、学生が自信を持って卒業できることを重要視している。学生の習熟度に応じた授業の展開を工夫したり、学生の授業評価を参考に改善策を検討したりすることはもちろん、やむなく留年した学生に対しても、目標を達成するまであきらめずに継続する姿勢を支援する体制は今後とも必要である。

また、担任の指導以外に、臨床心理士資格を有する専任教員 2 名によるカウンセリングの実施等、学生相談機能を併用した指導も実施している。これらのことが退学の減少や留年者の歯止め大きく寄与していると考えられる。

【資格取得の取組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)(8ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

こども学科においては、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるほか、幼児体育指導員の受験資格も得られる。平成20年度までは小学校教諭二種免許状を得させるための課程があったので、小学校教諭二種免許状と学校図書館司書教諭が取得可能であった。卒業生の資格取得の状況は、表のとおりである。

【卒業生の資格取得状況】

区分	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	取得希望者	取得者	%	取得希望者	取得者	%	取得希望者	取得者	%
小学校教諭二種免許状	54	54	100	20	20	100	13	13	100
学校図書館司書教諭	24	24	100	15	15	100	10	10	100
幼稚園教諭二種免許状	230	230	100	123	123	100	91	91	100
保育士資格	187	187	100	115	115	100	84	84	100
幼児体育指導者検定二級	43	43	100	22	22	100	15	15	100

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

平成23年度導入を目指して、レクリエーション・インストラクター、児童厚生二級指導員、リトミック指導員(1級、2級)、ベビーシッター、ピアヘルパーなどの資格を検討している。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数、割合等)について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

平成21年度においては、就職希望者86名のうち、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の資格に関連した分野に就職できた者は80名(小学校6名、幼稚園21名、保育士53名)であり、就職希望者の93%を占める。学習分野に関連が無い一般企業に就職した者は4名であり、2名が就職未定者であった。

(2) 卒業生に対する就職先(専門就職に限らない)及びその他の進路先(編入先等)からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

就職先からの卒業生に対する評価を得るために、学生の教育実習、保育実習の期間中に教員による実習巡回指導の機会を利用していることが多い。その評価は全般的に高い評価をいただいていると認識している。こども学科としては、保育者としての姿勢、職場における人間関係、保護者への対応、保育技術特にピアノ演奏に関するもの、絵画工作等に関する実務的な内容等を聴取し、その評価等を後輩の学生に伝え、参考とさせている。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価等)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

なし。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

関東短期大学の歴史を振り返ってみると、卒業生はこども学科(初等教育科)だけでも1万3千人を超え、実社会において多方面(小学校、幼稚園、保育所、施設、公務員、会社員等)、多業種にわたって活躍していることから推測しても、「社会に有為な人材」を育成していると評価をされていると認識している。

【特記事項について】

(1) この《Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

なし。

〈参考資料〉1. 「学生の満足度」の調査票の様式

2. 専門就職先からの卒業生に対する評価についての文書や資料

3. 卒業生アンケートの調査票等